

## 2026年1月25日(日) 第二礼拝「イエス様から目を離さないでください」へブル12章2節

キエル・ケボル師は著書「死に至る病気」の中で、絶望が死に至る病気だと言いました。また、絶望の反対は希望ではなく信仰であるとし、絶望の原因は信仰の問題であると言いました。その事から、絶望から解放されるためには信仰を回復することが大切だと分かります。

第一番目、信仰は神様から与えられるプレゼントです。信仰は、神様が私たちを愛して訪れてくださるものです。信仰は神様によって始まり、訓練され、強くされ、完全にしてくださいます。神様はアブラハムに現れ、彼を呼ばれました。アブラハムが神様の示された地に行くと、そこにはひどい飢饉がありました。それで、エジプトに行きましたが、自分の妻を妹だと言ってしまいました。また、彼はエリエゼルが彼の跡取りだと考えていましたが、神様は「あなたから生まれる者が跡取りになる。」と言われました。しかし、サラは自分のはしためのハガルをアブラハムに与え、その二人からイシュマエルが生まれました。アブラハムはその人生の中で様々なところを通り、信仰が揺さぶられながら、完全な信仰へと導かれていったのです。アブラハムは神様の言われることによくアーメンと答えた人でした。彼が99歳の時、神様に「来年の今頃子どもが与えられる」と言われた時もアーメンと言いました。100歳で子どものイサクを捧げなさいと言われた時もアーメンと言いました。アブラハムが息子を捧げようとした時、神様が彼を止め、「あなたが本当にわたしを愛することがわかった。」と言われ、アブラハムが完全な信仰になったことを主が認めてくださいました。アブラハムの人生から分かるように、信仰は神様によって始まり、完成も神様によるのです。

第二番目、イエス様は主権者です。信仰の始まりから完成までイエス様が主権者です。私たちの環境(問題)は、信仰を訓練し成長させるためにあります。イエス様は弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、ご自身は山で祈っておられました(マタイ 14:22~33)。向かい風で波に悩まされていた弟子たちは、湖の上を歩いて来られたイエス様を見て、最初は幽霊だと思い、怯えました。しかし、それがイエス様だと分かり、ペテロは水の上を歩いてイエス様の所まで行こうと試みます。ペテロがイエス様に目を留めていた時は、水の上を歩けましたが、風を見た時、怖くなり、沈みかけました。その後、二人が舟に乗り込むと暴風は止み、弟子たちはイエス様を拝し、神の子だと告白しました。この事が起こったのは、混乱の中にもイエス様が共におられること、イエス様から目を離してはいけないことを教えるためです。どのような問題もイエス様が主権者であり、その問題の中にイエス様を認めることが大切です。

第三番目、信仰の苦難です。信仰の苦難は、クリスチャンにとって避けられない訓練課程です。それに勝利する秘訣は、イエス様を見続けることです。イエス様は全人類の救いのため、喜びをもって十字架の苦難を忍び、勝利されたお方です。パウロは宣教の中で様々な訓練に遭いましたが、イエス様を仰ぎ見つつ、喜びをもって勝利することができました。私たちもまた、使命を持って生まれてきました。イエス様から目を離さず、喜びつつ、それぞれの働き(事業や仕事、勉強、育児等)を通して自らの使命を果たし、主に栄光を返しましょう。